

人も動物も HAPPYに暮らそう!

私たちに癒やしや安らぎを与えてくれる動物たち。動物と過ごす毎日は、幸せや喜びに満ちています。
人と動物が寄り添って暮らすことの豊かさや、心地よく共生するためのヒントをご紹介します。



ペットを飼うと
こんな良い
ことが...



育てることが
生きがいと
なる

生活に潤いや
安らぎが生まれる

お年寄りの
癒やしになる

防犯や
留守番に役立つ

ペットを通じて
人付き合いが深まる

動物と暮らす皆さんに お話を聞きました



みずしま え み
水嶋英未さん

市内在住。猫を飼うのはおにぎりくんが初めて。子どもの頃は、飼っていたゴールデンレトリバーときょうだいのように過ごしていた。

🐾おにぎりくん(♂)

推定5歳。「むさしの地域猫の会」の譲渡会を通じて水嶋家にやってきた。のんびり、優しい性格でドジっ子の一面も。

おにぎりを迎えて約2年、おにぎりのことで話題が増えたり、おにぎりの写真を送り合ったり。我が家の癒やし役でもあり、家族の真ん中におにぎりがいると感じます。

おにぎりはとても慎重で怖がり。家に来た当初はベッドの下に引きこもっていましたが、ゆっくり時間をかけて徐々に自己開示してくれるようになりました。通院などから帰宅した際、我が家に入ると本当にうれしそうで。「ここが安心できる場所だと思ってくれているんだ」と感動しました。

よくよく見ると、鳴き方ひとつでその日の機嫌も分かるし、甘えてくれるのがたまらない。夜、2階のソファで私がくつろいでいると、階段から顔をのぞかせるんです。座面をポンポンとたたくと、「待ってました!」とばかりに膝に飛び乗ってきて、寝そべったりして。気持ちが通じ合っている気がして至福の瞬間ですね。



ふじの めぐ み
藤野芽久美さん

TEAM299 副代表。ドッグアドバイザー、JNWSC ノーズワークインストラクター。動物好きな家族のもとで育ち、リス、ハムスター、ウサギなど、いろいろな動物を飼った経験を持つ。

左: 🐾アーロンちゃん(♀)
右: 🐾エールくん(♂)

ともに元保護犬。藤野家の家族になってアーロンちゃんは約7年、エールくんは約4年。甘えん坊で毎日藤野さんと一緒に寝ている。

生まれた時から家には犬がいて、これまで犬のいない生活はほとんど経験がありません。触れ合うとリラックスできて、犬は私にとって心の安定剤なんです。

毎朝私が起きると、アーロンとエールは久しぶりの再会かのように大喜び。そんなささいなことをとても幸せに感じます。2匹がそばに行けば、反抗期だった娘もニコリ。みんなで散歩しながら自然に会話が生まれるなど、家族をつなぐ役割も担ってくれました。それに犬の散歩をしていると、犬連れの方や犬が好きの方と知り合う機会がたくさんあって、犬を通して社会的なつながりができるのも楽しいですね。

日々2匹は成長していて、以前できなかったことがうまくできた時など、自信満々の表情でこちらを見上げるんです。そんな姿に「私も頑張らなくちゃ!」と励まされたりもしています。



🐾みるくちゃん(♀)

みんなのアイドル! アニマルセラピー犬を ご紹介



高齢者グループホーム「光風荘」では、11歳チワマルのみるくが活躍しています。みんなの癒やしとなっているのはもちろんのこと、「みるくと一緒に…」と利用者が出掛けるきっかけにもなり、生活の幅を広げてくれています。セラピー犬というよりは、生活を共にする家族として光風荘で暮らしています。

アニマルセラピーとは?

犬や猫、ウサギなど動物との触れ合いを通じて、心身の癒やしや健康の改善、生活の質の向上を促す活動や療法の総称。ストレスの緩和や、動物を介して会話が自然と増えることなどが期待されます。

人とペットが共生する地域を目指して

市ではこのような取り組みを行っています。

■ 動物愛護週間事業

毎年9月20日～26日は動物愛護週間。動物の命の大切さや適正な飼い方への理解を深め、人と動物が共生できる社会を実現することが目的です。市内を中心に活動する動物愛護団体などと協力して、犬と猫の譲渡会を開催しています。譲渡で新しい家族を迎えることが、犬や猫の大切な命を守る取り組みにつながります。



■ 地域環境協働事業

猫によるトラブルをなくし、人と猫が快適に共生できるまちづくりが事業の目標。飼い主のいない猫の増加を抑制するための啓発活動、猫のトラブル相談、飼い主のいない猫に対する不妊・去勢手術助成、猫の譲渡会開催など、むさしの地域猫の会と協働事業を行っています。飼い主のいない猫を増やす要因を減らすことで、暮らしやすい地域づくりを目指しています。



■ 動物の飼い方セミナー

人とペットが共に生活していくためには、正しい知識と適切なしつけが欠かせません。パートナーとして家族の一員になる動物の代表である犬や猫を対象に、都獣医師会武蔵野三鷹支部と連携して「どうぶつセミナー」「むさしの猫セミナー」を開催。動物の習性やコミュニケーションの取り方を知ってもらい、犬や猫とのパートナーシップを築くお手伝いをしています。



動物も私たちが
みんなが幸せに
暮らせる街に

東京都獣医師会
武蔵野三鷹支部 支部長
井の頭通り動物病院
すずき りょういち
鈴木亮一 先生

都獣医師会武蔵野三鷹支部では、市と協力し、「どうぶつセミナー」や「むさしの猫セミナー」など、動物愛護に関する事業に取り組んでいます。ペットは今や大切な家族の一員です。その一方で、人と動物が心地よく共生するためには、飼い主だけでなく、動物を飼っていない方々の理解や思いやりも欠かせません。私たちはこれからも市と共に、動物も、飼い主も、そして動物を飼っていない方も、みんなが幸せに暮らせる武蔵野を目指して活動を続けていきます。

市内で活動する団体

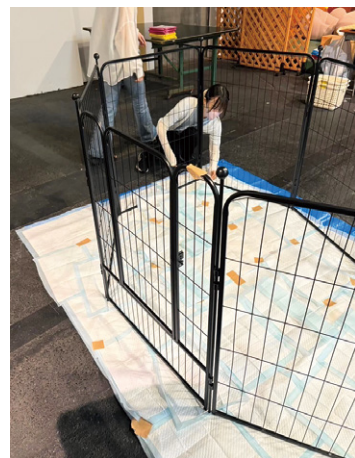
TEAM299 (チームにくきゅう)

ペットと人がより良く共生できる環境づくりのために活動。シンポジウム (Animal Welfare) やセミナー (ペット防災・狂犬病予防) の開催、しつけ・マナー・ノーズワークの普及啓発、保護犬譲渡会などに取り組んでいます。行政への情報提供や行政と連携した活動も。



成蹊大学 Uni. (ゆにぷに)

成蹊大学ボランティア本部「Uni.」の中で唯一「動物」をテーマに活動。主に、保護動物と新しい飼い主をつなぐ譲渡会のサポート役として、リーフレット配布や受付、会場設営などを行っています。



武蔵野ワンワンパトロール隊

愛犬と一緒に散歩しながら、地域の安全を見守っています。年に1回武蔵川公園ドッグランでしつけ方教室を開催。愛犬とより長く快適に暮らす基本のしつけ方が学べ、参加者にも好評。そのほか、年末パトロールや、毎月駅前の銀行で警察署と一緒にATM警戒活動もしています。



むさしの地域猫の会

人と猫が幸せに共存できるまちづくりを目指して2006年に発足。今年で20年目を迎えました。元々は、飼い主がいない猫に不妊・去勢手術をし、地域猫として暮らしていけるようにする、いわゆる地域猫活動をしていました。その後、時代とともに野良猫問題も減少。現在は保護活動がメインで、月に1回譲渡会を開催しています。

私自身、「猫を飼うと楽しいことしかない」と思っているんですよ。仕事で疲れ切ってしまった時も、「この子のために頑張ろう」とエネルギーが湧いてきます。だから、「猫に恩返しをしたい」という思いが、この活動の原動力です。

ただそばにいてくれる、守らなければいけない存在がいるというのは素晴らしいことで、人生に張りが生まれます。それに、猫に教わることもたくさんあるんです。私には、猫は過去を悩むこともなければ、未来を憂うこともなく、今を楽しんで生きているように見えます。人生のお手本がいつもそばにいてくれるみたいだと感じます。

猫の平均寿命は15～16歳。最期まできちんと命を守ることを考えながら、猫との暮らしを楽しんでいただきたいと思います。



守るべき存在が
そばにいたことが
生きがいになる



代表
にしむら まい こ
西村麻衣子さん

近所にいた病気の子猫を「なんとかしたい」と思ったことが活動のきっかけ。地域猫活動と猫の保護・譲渡に取り組む「むさしの地域猫の会」を知り、2011年に入会。広報担当を務めた後、代表に。実家では犬と猫を飼っていた。

飼う人も飼わない人も みんなが幸せに暮らすためにマナーを守ろう

犬の飼い方



散歩のルール

散歩の時にはリードを付けましょう。トイレは自宅で済ませ、他人の敷地や家の壁、公道におしっこをさせないように。万が一ふんをしたら、飼い主が責任を持って必ず持ち帰りましょう。

鳴き声

鳴き声で困っている人がいるかもしれません。犬が鳴く・ほえる原因は、警戒、要求、不安、興奮などさまざま。困った時はトレーナーやかかりつけの動物病院に相談しましょう。

登録・狂犬病予防注射

生後91日以上の子犬を飼っている方には、犬の登録を行い、毎年1回狂犬病予防注射を受けさせる義務があります。注射したら注射済票の交付を受け、首輪などに着けましょう。



猫の飼い方

室内飼い

近所への迷惑にならないよう、また、飼っている猫を危険にさらさないよう、室内で飼いましょう。交通事故や感染症、猫同士のけんか、迷子などは室内飼育で防げます。

不妊・去勢手術

猫は繁殖力のとても強い動物。飼いきれない子猫が生まれないよう、不妊・去勢手術を推奨しています。手術により発情期のストレス軽減や特定の病気予防が期待できます。

連絡先の表示

室内から飛び出してしまったり、災害が起きたりして、気を付けていても離ればなれになってしまうことがあります。連絡先入りの首輪や迷子札を付けることで、早期発見につながります。

犬・猫共通

マイクロチップの登録

ペットショップから迎えた犬や猫にはマイクロチップが装着されています。飼い主情報の変更登録をしてください。マイクロチップ装着の犬や猫を譲り受けた場合も同様です。飼い主情報を登録しておくことで、マイクロチップは迷子や災害ではぐれたときの身元証明になります。



ペット防災

避難所での生活は日常の環境と大きく異なり、ペットにも大きなストレスを与えます。ペットにとっては「在宅避難」がベスト。在宅避難が難しい場合は避難所への「同行避難」となりますが、アレルギーのある人や動物が苦手な人への配慮から、避難所では人とペットの避難スペースは別々で



す。いざというときに自宅での生活が継続できるよう、日頃からペットフードや水などを備蓄して、しつけや健康管理、住まいの防災対策にも気を配りましょう。

YouTube 市公式動画チャンネル『武蔵野市ペットのための防災対策』



在宅避難編



同行避難編